

旧笠山竹
林寺所蔵

地藏菩薩立像

美術工芸研究室

昭和40年度中に行つた仏像納入文書の調査研究のうち、奈良県桜井市大字笠（旧式上郡上郷村大字笠）にある旧笠山竹林寺所蔵（現在村管理）の地藏菩薩立像は作域も卓れ、また像内に五点の納入文書を奉籠する像で、これらによつて像の性格の一端を窺うことができるので概略を紹介する。

まず、像は像高2尺7寸3分^{（註）}の木造彩色像で、比較的落ちつきのあつた顔や破綻のない衣紋の彫りの調子には、これがほぼ鎌倉中期頃の作風を示すことが知れる。構造は彫眼にもかかわらず頭部を耳の

第1図 地藏菩薩立像 竹林寺

前後にて矧ぎ、これを胸飾り辺にて駄部に矧ぎつける。また本駄は大きく前後に矧ぐほか、別に背面上半身で楕円形の矧ぎつけを施す。さらに左右両肩を別に矧ぐ。彩色は後補であるが、後記の納入文書によつても知れる通り、これは延宝年間の修理の際に施されたものとみられる。これらは粗雑でまた濃厚なため当初の彩色は殆ど認め難い。欠損部分は右手第二、三、五指を各々第二関節部分から、また左手第二、三、四、五指を第一、第二関節で欠くほか、両足先も矧ぎめて離脱し、うち左足先端部分を欠いている。持物の宝珠は欠失、また光背、台座は後補である。

一、結縁交名（その一）

紙本墨書（表裏） 縦 一尺六分 横 三寸三分

紙

学英 範宗 長進 有尊 真善 名門 長□ 応舜 明門 禪長
覚遍 宣慶 良遍 宴信 敬寛 識淵 章信 範恩 弁盛 義鏡
有忍

聖幸 章俊 親心 良玄 光道 慶□ 慶福 彦栄 良尊
寛成 信胤 専芸 堯琢 盛春 静恩 尋賢 俊賢 降金 仁実

門寛 実専 □ 敏 善心 永豪 門智 弘徽 有忍 同阿弥陀仏
(以上表)

慶寛 明舜 善門 重禪 貞引

幸舜 慶俊 永俊 門慶

宗俊 □ 慶 良玄 貞玄 永

導成 教弁 尼阿妙 西阿 米阿

重 □ 尼正智 範門 良遍 順弁

善男 諸阿弥陀仏 蓮妙 西妙 聖如

(以上裏)

二、結縁交名(その二)

紙本墨書 縦 一尺四分 横 三寸五厘

玄高 覚弘 永心 塚暹 延門 勝 □ 門 慶 □ 玄忍 □ □

信 □ 朝弘 □ 尊

榮淳 門宗 教豪 明算 実豪 □ □ 慶縁 盛俊 永濟 善門

方 顯理方

教学、聖印、禪忍、順琢 順増 英 □ □ 春 女幡磨 □

家姉子 源氏 □ □

得阿 源氏女 藤原女 信阿 □ 阿 藤原 □ □ 阿 □ 阿 得阿

阿弥陀仏 忍阿 惠蓮 妙阿

聖心 唯真 願阿 信阿 香阿 藤原女 善阿 源氏 阿弥陀仏

延蓮 生蓮

三、結縁交名(その三)

紙本墨書 縦 一尺六分 横 二寸五分

旧笠山竹林寺所藏地藏菩薩立像

本仏房 発心、心地、 □ 阿 体阿 真阿 西阿 顯阿 □ 阿

安阿 寿阿 真 □ □ 阿 善阿 西阿 信阿

讃阿 経阿 静阿 信阿 蓮妙房 蓮阿 真阿 西蓮房 念仏、

西念、西阿 □ 阿 西阿 西阿 浄阿 智性房

本阿 戒阿 大阿 蓮阿 経阿 蓮阿 勝阿 真阿 妙法房 経

阿 道阿 蓮正房 尼阿弥陀 恒阿 蓮阿 鏡阿

妙蓮 如阿 信阿 一 □ 藤原姉子 一阿 父阿 盧阿 成阿

西蓮房 蓮阿 藤原中子 專阿 生蓮房 諸阿 西念房 專阿

大中臣仲子 浄恵房 善阿 舟治姉子 藤原 □ 子 藤原姉子 藤

原姉子 弥阿

金蓮房 □ □ 藤原姉子 論阿 見阿 藤原一子 繁野姉子

大 □ 氏 善阿 和 □ □ 子 土佐權守 宇治姉子 藤原仲子 笠

姉子 大阿 橘仲子

生阿 藤原姉子 心阿 信阿 藤原氏 念阿 蓮阿 南賀末 □

阿 浄蓮房 禅妙、正阿 勝阿 尼真如 見阿 視阿

□ □ 房 覚阿 尼即阿 狛 □ □ 勢阿 妙阿 信阿 □ 阿

四、過去者交名

一紙

紙本墨書 縦 九寸五分 横 八寸二分

過去尼仏妙 過去成啓 過去成仁 過去善縁 過去俊兼

過去法花 過去弘詮 過去春命 過去経妙 過去堯仁

尼法心 藤原氏 僧成俊 僧範成 春女 長寿 德寿

龟石丸 僧慶俊 法界衆生 成阿弥陀仏 過去 □ 妙

但馬女 過去増善 過去亀 過去宗観 過去長寿
過去国安 過去女 過去大屋重吉 過去カイトツカ 日光
過去光阿弥随仏 僧教信 過去尊信 過去永尊 過去興賢
過去堯弁 過去徳阿弥 過去万光 過去万歳 過去福成
過去弥勒房 過去蓮(浄カ)房 福寿女 過去仏妙 過去唯一
過去蓮(浄カ)房 父兼成 過去観能 松女 鶴女 過去幸法□
成万 又過去若子トチ 徳王 四郎 過去ツロシヨ 延命女 僧重俊
自然 僧弁石 過去母 過去五郎房 過去行実 過去実行
過去尊願 過去尊阿弥

五、再興願文

紙本墨書 縦 一紙 尺五分 横 二寸七分

延宝□(八カ)庚(二月)年□□六日仏師北京□
申(知カ)

大仏前□□尉

奉再興地藏尊 笠竹林寺現住高繁之

忘者老師秀繁一周忌追善 取次肝煎ハ 京室町 □宗尊
高繁由緒故

以上によつてはいわゆる造像記の類は認められず、したがつてこの像の造立時期をはじめ願主、施主はもとより作者や造立意図についても確かめられない。しかし、概観するところ、これら326名に及ぶ交名は像の造立に當つて関係したいわゆる結縁僧俗の交名とみられ、こ

これらの検討如何によつては像の造立時期や結縁者の性格が明らかとなる可能性がある。そこで、これまでに概略検討した交名者を示すと以下のようになる。

範宗	西大寺有恩過去帳 三五六	別興福寺次第 一 面觀音立像 承久三(一一三)	堀口氏蔵地蔵菩薩立像 貞應(一一三)
有尊	西大寺有恩過去帳 三五〇	別當次第 二 宗 一 面觀音立像 承久三(一一三)	
覚遍	別當次第 四 宗 一 面觀音立像 承久三(一一三)		
宣慶 (尊)	西大寺有恩過去帳 三五八	別當次第 四 宗 一 面觀音立像 承久三(一一三)	
良遍	学正記 (建長元・五・七)	別當次第 四 宗 一 面觀音立像 承久三(一一三)	

(裏) 第2図 結縁交名(その1) 竹林寺

(表)

